

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成29年4月～6月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成29年7月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 29 年 4～6 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市商工会、大河原町商工会、みやぎ仙台商工会、くろかわ商工会、加美商工会、遠田商工会、若柳金成商工会、みやぎ北上商工会、石巻かほく商工会、本吉唐桑商工会
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 144 企業

2. 調査対象期間

平成 29 年 4 月～6 月期を対象として、調査時点は平成 29 年 6 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	32
建 設 業	23
小 売 業	43
サービス業	46
合 計	144

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成 29 年 4 月～6 月期)の調査において、産業全体の業況D I (前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期より 4.2 ポイントの改善で△31.5 (前期△35.7) となった。産業別にみると、製造業が△21.9 (前期△28.1) と 6.2 ポイント改善、建設業で△13.0 (前期△20.8) と 7.8 ポイント改善、小売業で △52.4 (前期△53.5) と 1.1 ポイント改善、サービス業でも△28.2 (前期△31.9) と 3.7 ポイントの改善であった。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額) D I では、全体として今期は前期(H29年1月～3月期)に比べて改善した。産業別にみると、製造業は△16.1 (前期△34.4)で 18.3 ポイントの改善、建設業は△13.1 (前期△37.5)で 24.4 ポイントの改善、小売業で△48.8 (前期△53.4)と 4.6 ポイント改善、サービス業で△19.6 (前期△34.0)と 14.4 ポイントの改善で、いずれの産業でも改善方向であった。

② 採算の状況

採算D Iについても、全体として今期は前期に比べて改善した。産業別にみると製造業で△18.8 (前期△29.0)と 10.2 ポイント改善、建設業で△17.4 (前期△20.8)で 3.4 ポイント改善、小売業では△53.5 (前期△52.2)で△1.3 ポイント悪化、サービス業では△30.5 (前期△31.9)と 1.4 ポイント改善した。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、製造業では 25.0%で前期比 9.4 ポイント増加、建設業では 26.1%で前期比 1.1 ポイント増加、小売業では 2.3%と前期比△2.2 ポイント減少、サービス業では 13.0%で前期比 4.1 ポイント増加した。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

H29年6月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は前期（H29年3月調査）と比較して製造業が2ポイント改善のプラス7、非製造業は3ポイント改善のプラス7だった。先行きは製造業で若干の悪化、非製造業で悪化を見込んでいる」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較ではいずれの業種でも改善となった。

今期の宮城の全国、東北との売上額D I比較では、製造業・サービス業で全国以下、東北以上、建設業・小売業で全国・東北以下であった。

表－1 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 19.3	△ 8.2	△ 23.0	△ 17.0	△ 34.4	△ 16.1
建 設 業	△ 17.8	△ 8.2	△ 22.1	△ 6.6	△ 37.5	△ 13.1
小 売 業	△ 38.9	△ 30.9	△ 49.3	△ 45.6	△ 53.4	△ 48.8
サービ業	△ 27.5	△ 16.4	△ 37.4	△ 25.7	△ 34.0	△ 19.6

② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では、製造業、建設業、サービス業で改善したが、小売業で悪化した。今期の宮城の全国、東北との採算D I比較では、製造業・建設業・小売業で全国・東北以下、サービス業で全国以下、東北以上であった。

表－2 採算の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 21.8	△ 13.4	△ 24.1	△ 15.6	△ 29.0	△ 18.8
建 設 業	△ 19.9	△ 11.4	△ 22.6	△ 14.6	△ 20.8	△ 17.4
小 売 業	△ 37.6	△ 30.0	△ 47.7	△ 43.4	△ 52.2	△ 53.5
サービ業	△ 29.0	△ 21.5	△ 36.4	△ 32.0	△ 31.9	△ 30.5

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（H29年7月～9月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業で6.7ポイント改善、建設業で△21.7ポイント悪化、小売業で4.6ポイント改善、サービス業で△4.3ポイントの悪化の見通しとなった。

採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で9.5ポイントの改善、建設業で△8.7ポイントの悪化、小売業で9.3ポイントの改善、サービス業で4.4ポイントの改善見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では、売上・採算共に全国・宮城で改善の見通しとなった。建設業では、売上・採算共に全国及び宮城で悪化の見通しとなった。小売業では、売上は全国で若干の悪化見通し、宮城で改善の見通し、採算では共に改善見通しとなった。サービス業では、売上では全国で若干の改善、宮城で悪化の見通し、採算では全国・宮城共に改善の見通しとなった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況と見通し (前年同期比・D I)

区 分 業 種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 8.2	△ 4.0	△ 16.1	△ 9.4
建 設 業	△ 8.2	△ 16.0	△ 13.1	△ 34.8
小 売 業	△ 30.9	△ 31.3	△ 48.8	△ 44.2
サービス業	△ 16.4	△ 16.2	△ 19.6	△ 23.9

表－4 採算の状況と見通し (前年同期比・D I)

区 分 業 種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 13.4	△ 11.5	△ 18.8	△ 9.3
建 設 業	△ 11.4	△ 15.4	△ 17.4	△ 26.1
小 売 業	△ 30.0	△ 27.4	△ 53.5	△ 44.2
サービス業	△ 21.5	△ 19.5	△ 30.5	△ 26.1

2. 県下産業別の景況

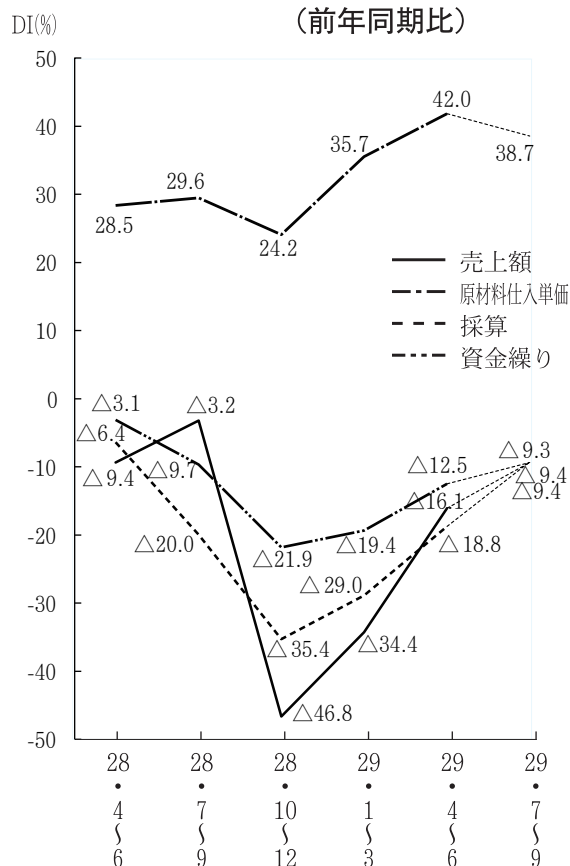
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△16.1（前期△34.4）となり18.3ポイント前期より改善、採算D Iは今期△18.8（前期△29.0）で10.2ポイントの改善、資金繰りD Iも今期△12.5（前期△19.4）で6.9ポイントの改善となった。

原材料仕入単価は今期42.0（前期35.7）と6.3ポイントの上昇となった。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



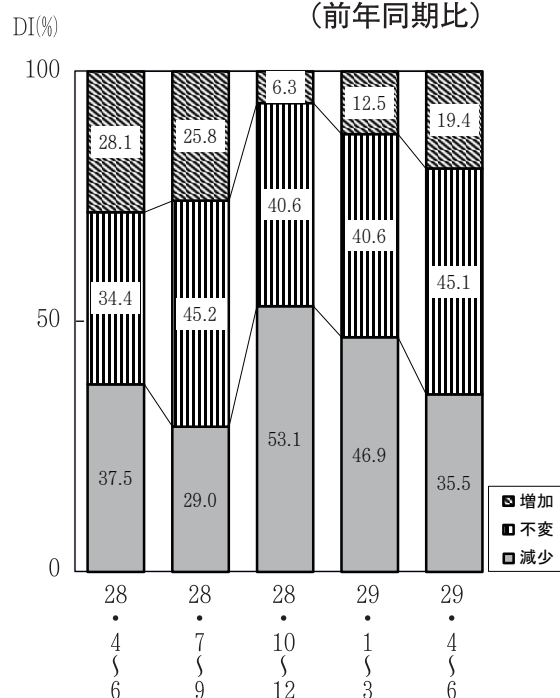
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工) 額

「増加」と回答した企業は、全体の19.4%（前期12.5%）と6.9ポイント増加し、「減少」と回答した企業は35.5%（前期46.9%）と△11.4ポイント減少した。

結果として売上（加工）額D Iは△16.1（前期△34.4）となり前期比18.3ポイント改善した。

図1-2 売上(加工) 額の状況
(前年同期比)

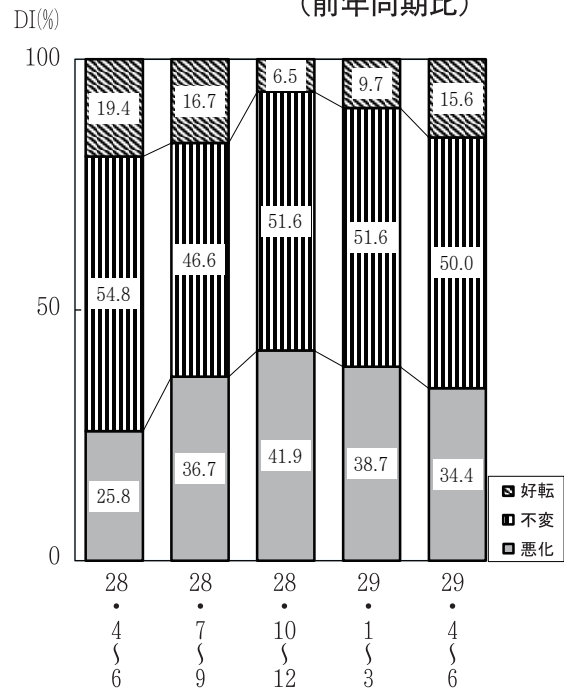


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 15.6% (前期 9.7%) で 5.9 ポイント増加し、「悪化」と回答した企業は 34.4% (前期 38.7%) で△ 4.3 ポイント減少した。

その結果、採算 D I は△ 18.8 (前期△ 29.0) で前期比 10.2 ポイント改善した。

**図 1 - 3 採算の状況
(前年同期比)**



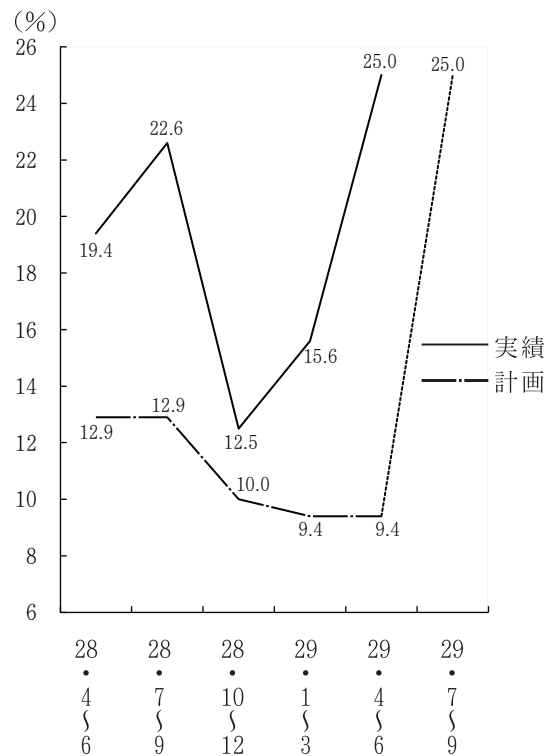
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施 (実績) 企業割合は、全体の 25.0% (前期 15.6%) で前期と比べ 9.4 ポイント増加した。

その設備内容は、工場建物、生産設備、車両・運搬具、福利厚生施設、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 25.0% で、その設備内容は、土地、工場建物、生産設備、その他となっている。

図 1 - 4 設備投資の状況

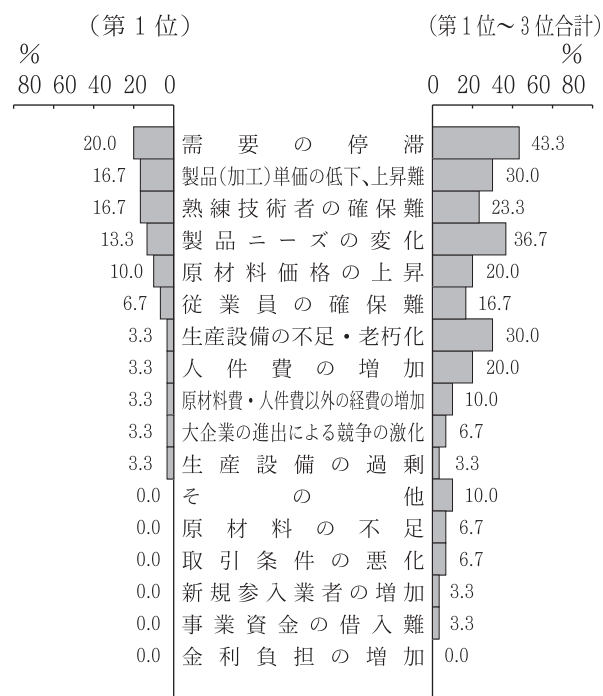


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「需要の停滞」が20.0%で、次いで「製品（加工）単価の低下、上昇難」と「熟練技術者の確保難」が同率16.7%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも「需要の停滞」が43.3%（複数回答計、以下同じ）で最上位、「製品ニーズの変化」が36.7%、「製品（加工）単価の低下、上昇難」と「生産設備の不足・老朽化」が同率30.0%で続いた。

図1-5 経営上の問題点



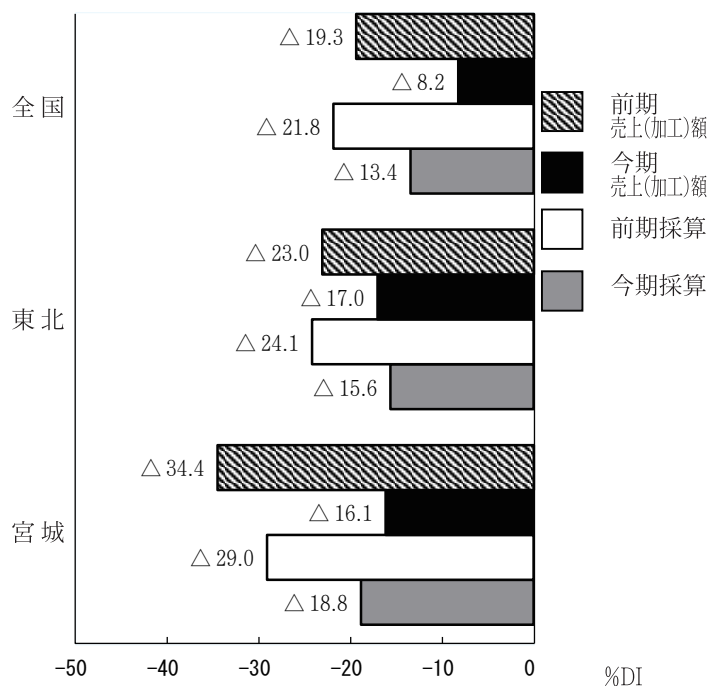
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では売上（加工）額D Iでは全区分で改善した。その改善度は、宮城、全国、東北の順であった。

採算D Iの比較でも全区分で改善した。その改善度は宮城、東北、全国の順であった。

本県回答事業者からは「従業員は見つっても、技術を習得して職人になれる人がいない」（家具製造業）や、「今年に入って新規取引先を開拓しているが軌道に乗るのはこれから」（縫製業）などのコメントがあった。

図1-6 全国東北宮城売上（加工）額・採算比較（前年同期比）



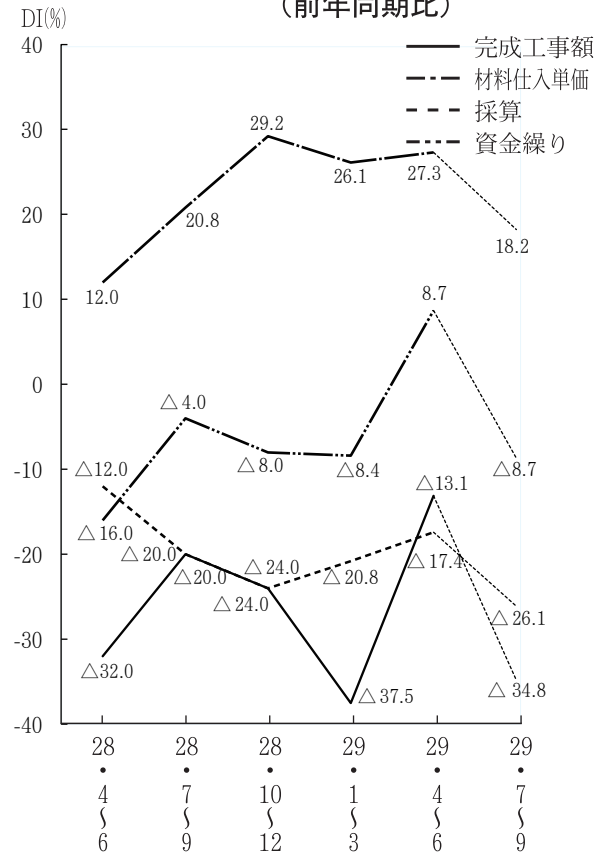
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△13.1（前期△37.5）と前期より24.4ポイント改善、材料仕入単価D Iも今期△17.4（前期△20.8）で3.4ポイント改善、採算D Iも今期△24.0（前期△20.8）で3.2ポイント改善、資金繰りD Iも今期8.7（前期△8.4）と17.1ポイント改善した。

材料仕入単価D Iは今期27.3（前期26.1）と前期より1.2ポイント上昇した。

図2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



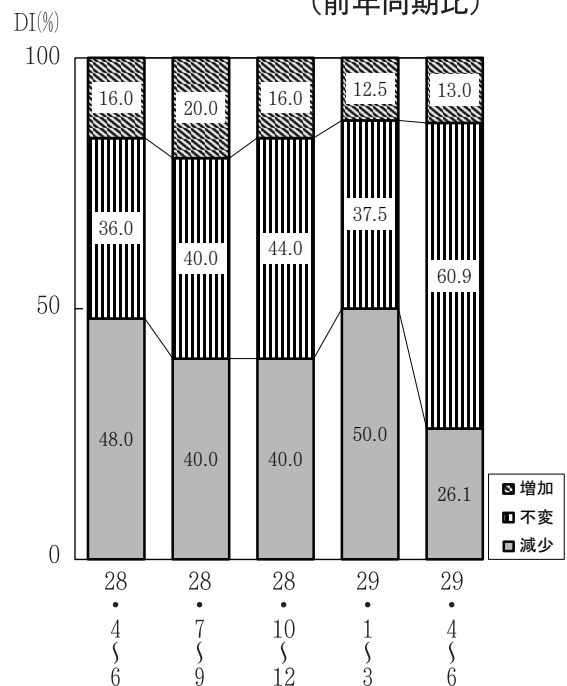
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の13.0%（前期12.5%）で0.5ポイント増加、「減少」と回答した企業は26.1%（前期50.0%）と△23.9ポイント減少した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△13.1（前期△37.5）と24.4ポイント前期より改善した。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

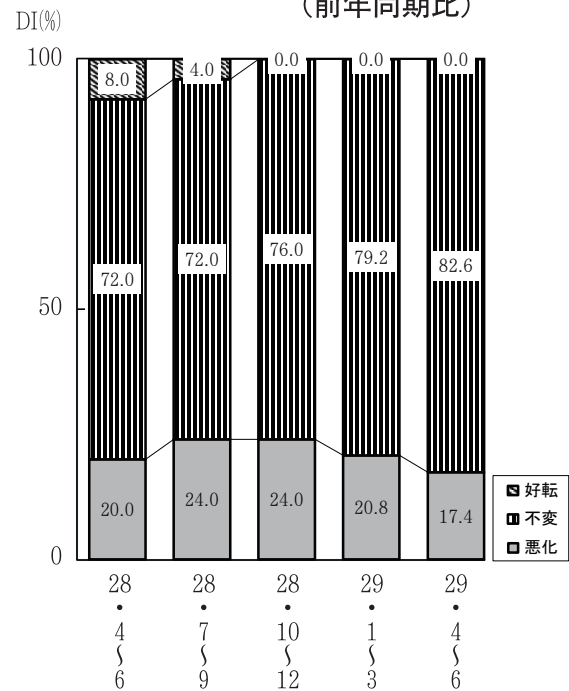


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 0.0% (前期 0.0%) で前期と同じ、「悪化」と回答した企業は全体の 17.4% (前期 20.8%) で Δ 3.4 ポイント減少した。

その結果、採算 D I は Δ 17.4 (前期 Δ 20.8) と 3.4 ポイント改善した。

図 2 - 3 採算の状況
(前年同期比)



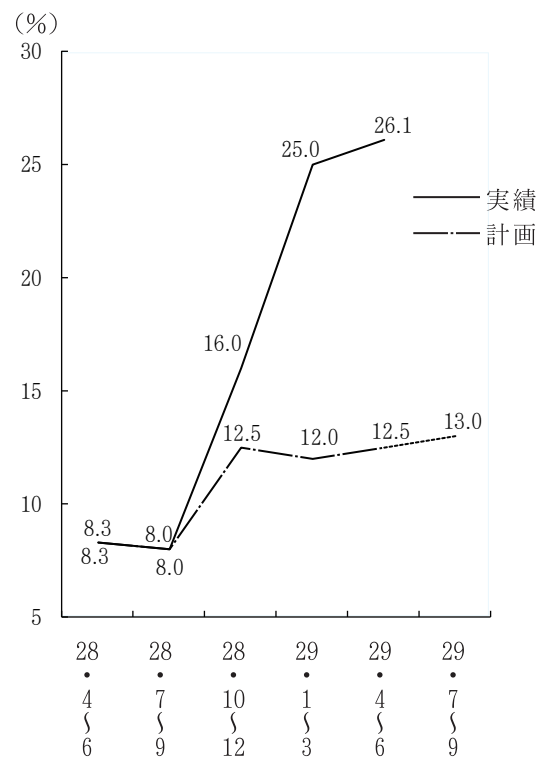
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施 (実績) 企業割合は、全体の 26.1% (前期 25.0%) で前期より 1.1 ポイント増加した。

その設備内容は、建物、建設機械、車両・運搬具、付帯施設、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 13.0%で、その設備内容は、土地、建物、車両・運搬具、福利厚生施設となっている。

図 2 - 4 設備投資の状況

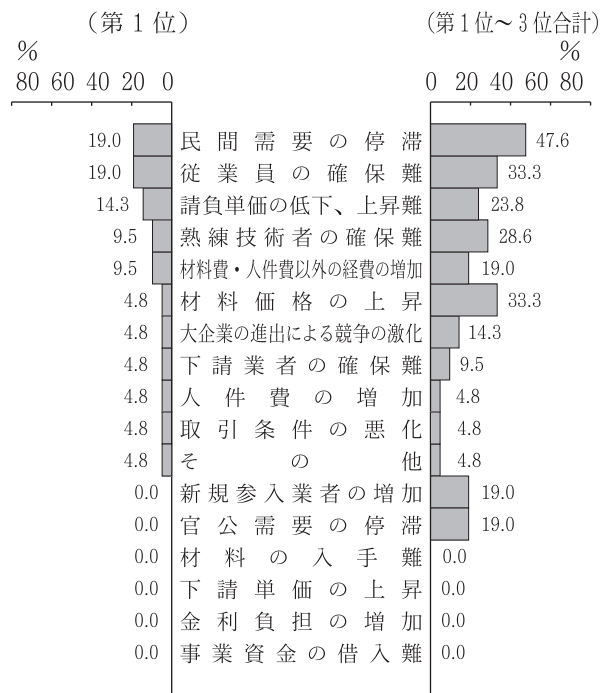


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「民間需要の停滞」と「従業員の確保難」が同率19.0%で、次いで「請負単価の低下、上昇難」が14.3%であった。

重要度第1位から第3位合計では、「民間需要の停滞」が47.6%（複数回答計、以下同じ）で最上位、次いで「従業員の確保難」と「材料価格の上昇」が同率33.3%であった。

図2-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、売上額D Iは全区分で改善した。

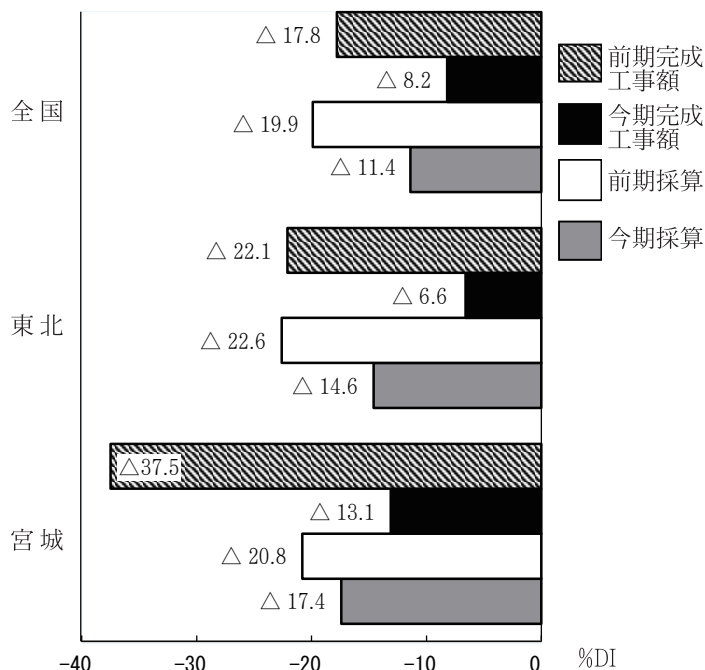
その改善度は宮城、東北、全国の順であった。

採算D Iの比較でも全区分で改善した。

その改善度は全国、東北、宮城の順であった。

本県回答事業所からは「元請からの受注が徐々に減少、民営住宅の受注が減少しているようだ」や、「売上は上昇しているが費用を下げる必要」などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較（前年同期比）



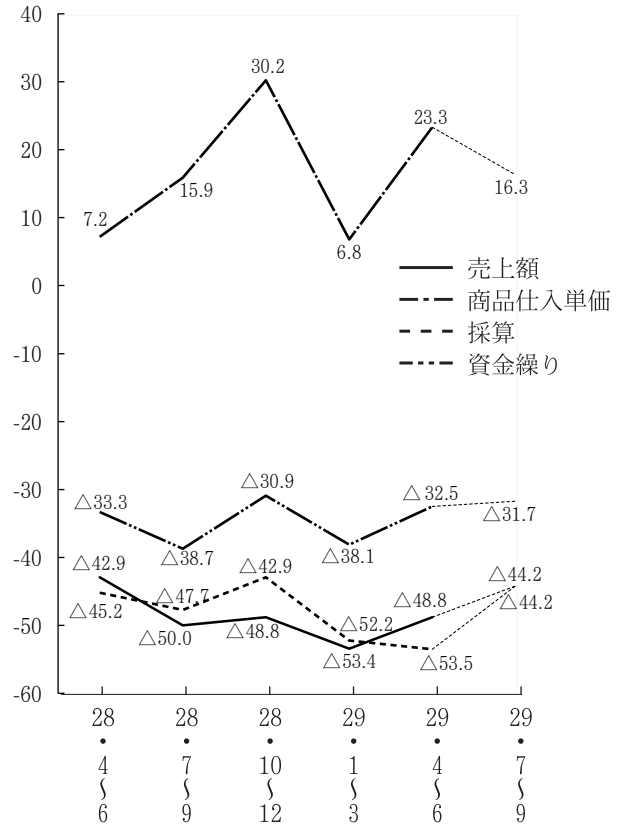
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは今期△ 48.8（前期△53.4）と前期に比べ 4.6 ポイントの改善、採算D Iは今期△53.5（前期△52.2）で△1.3 ポイント悪化、資金繰りD Iでは今期△32.5（前期△38.1）で 5.6 ポイント改善した。

商品仕入単価D Iは今期 23.3（前期 6.8）となり 16.5 ポイント上昇した。

図 3 - 1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



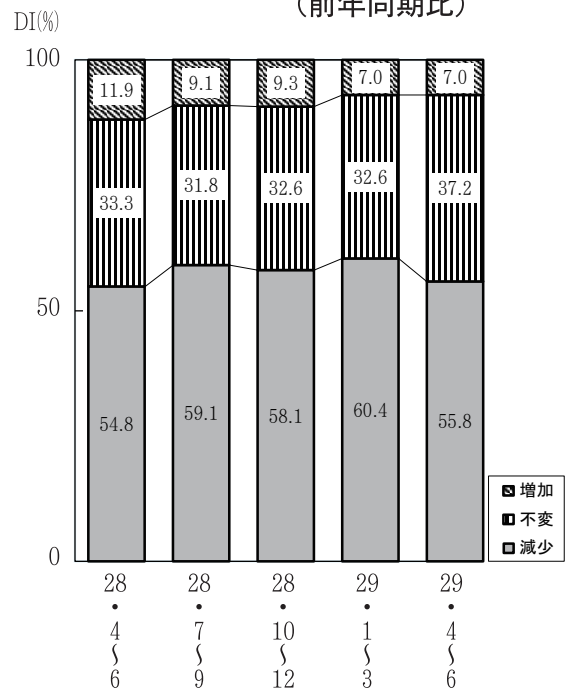
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の 7.0%（前期 7.0%）で前期と同じ、「減少」の回答は、今期は全体の 55.8%（前期 60.4%）で△4.6 ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは今期△48.8（前期△53.4）と 4.6 ポイント前期より改善した。

図 3 - 2 売上額の状況
(前年同期比)

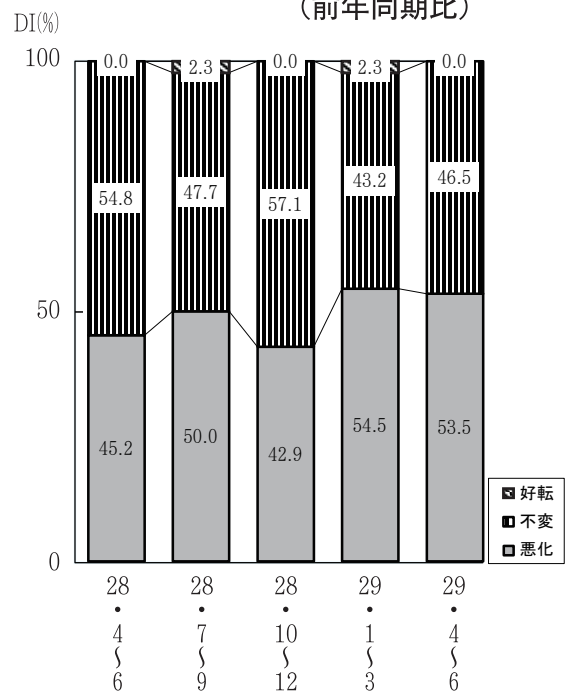


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の0.0%（前期2.3%）と△2.3ポイント減少、「悪化」の回答も、今期は全体の53.5%（前期54.5%）で△1.0ポイント減少した。

その結果、採算DIは、今期△53.5（前期△52.2）で前期より△1.3ポイント悪化した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



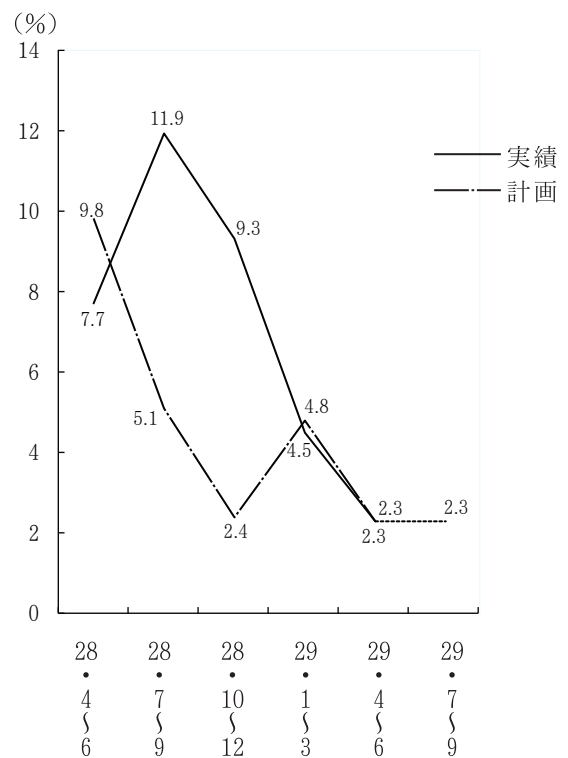
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の2.3%（前期4.5%）で、前期より△2.2ポイント減少した。

その設備内容は、その他であった。

来期に設備計画している企業は全体の2.3%で、その設備内容は、店舗となっている。

図3-4 設備投資の状況

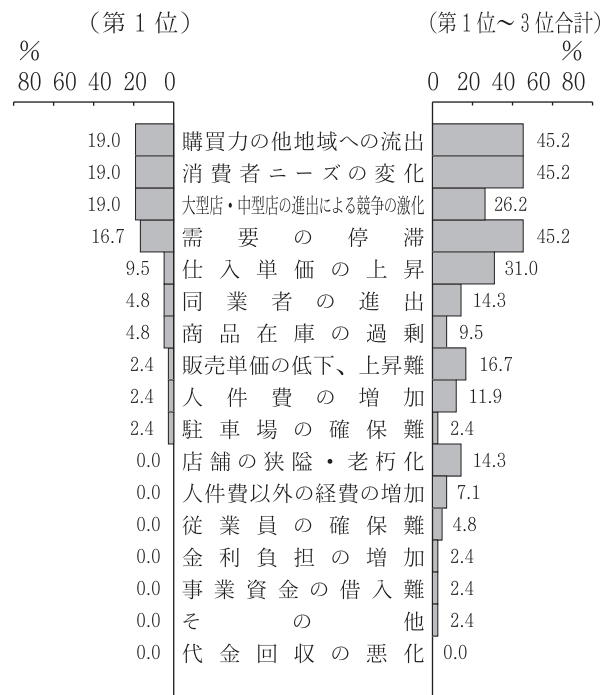


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「購買力の他地域への流出」、「消費者ニーズの変化」、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が同率の19.0%であった。

重要度第1位から第3位合計では、「購買力の他地域への流出」、「消費者ニーズの変化」、「需要の停滞」が同率最上位(45.2%(複数回答合計))であった。

図3-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では、売上DIは全区分で改善した。

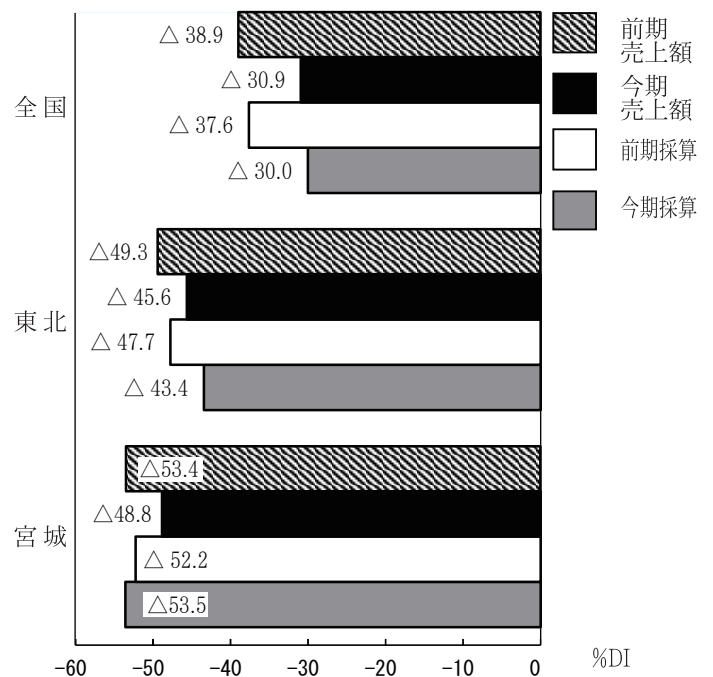
改善度は全国、宮城、東北の順であった。

採算DIでは、全国、東北で改善、宮城で悪化した。

改善度は全国、東北の順であった。

本県回答事業所から「新しい商品を仕入れたため客数が増え、売り上げも少し上がったが、現金仕入れのため資金繰りが大変」(衣料品販売)や「来期には店舗のイメージチェンジを予定しているため、売り上げアップに繋がればと思っている」(花・植木販売)などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較(前年同期比)



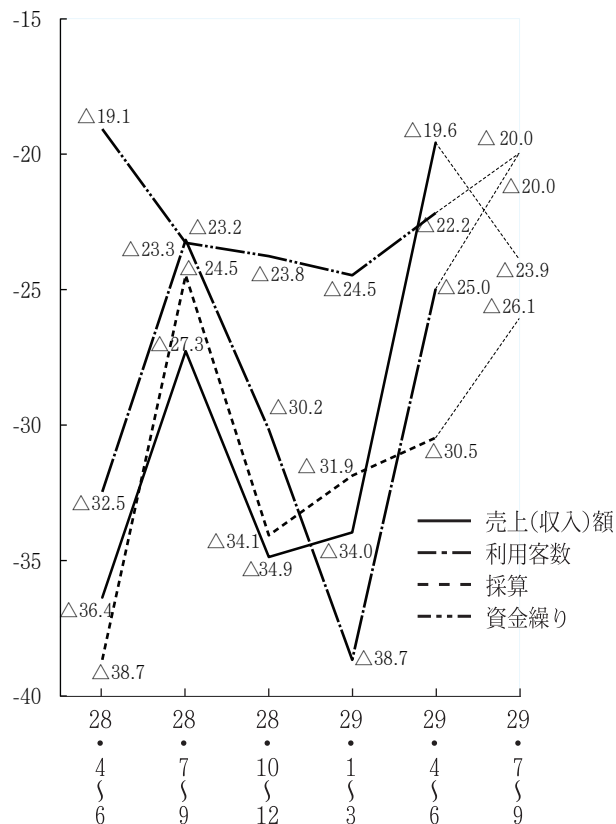
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iは今期△19.6（前期△34.0）で14.4ポイント改善、採算D Iも今期△30.5（前期△31.9）で1.4ポイント改善、資金繰りD Iも今期△22.2（前期△24.5）と2.3ポイント改善した。

利用客数D Iは今期△25.0（前期△38.7）で13.7ポイント上昇した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



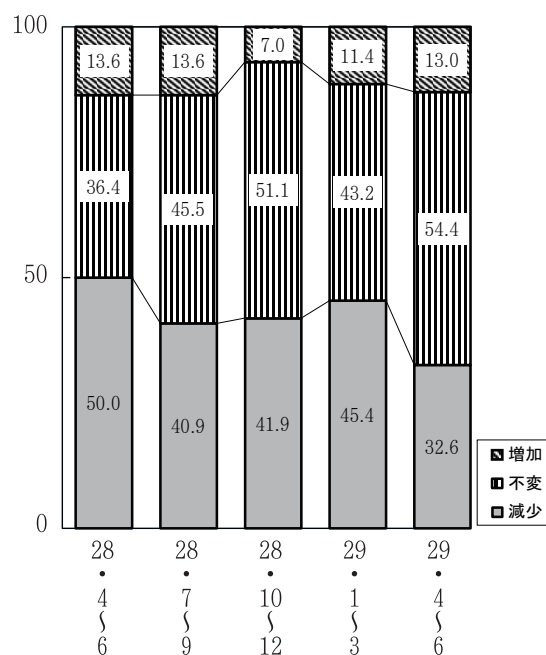
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の13.0%（前期11.4%）で1.6ポイント増加、「減少」の回答は今期32.6%（前期45.4%）で△12.8ポイント減少した。

その結果、売上（収入）額D Iは今期△19.6（前期△34.0）で前期より14.4ポイント改善した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

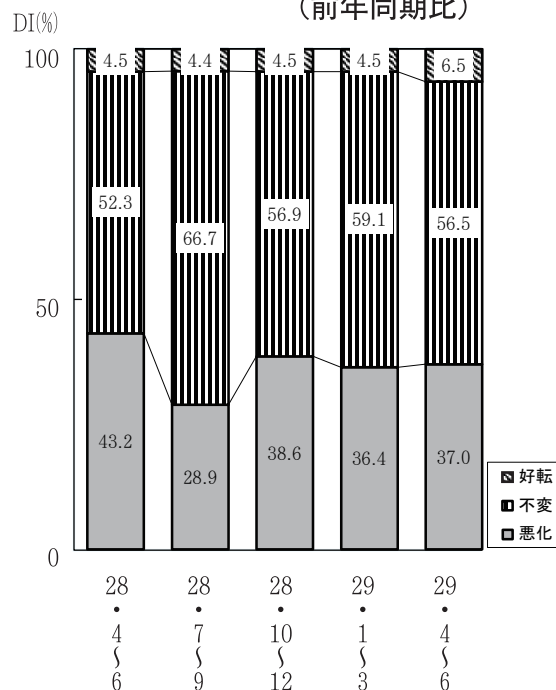


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の6.5%（前期4.5%）で2.0ポイント増加、「悪化」と回答した企業も今期37.0%（前期36.4%）と0.6ポイント増加した。

その結果、採算DIは今期△30.5（前期△31.9）で前期より1.4ポイント改善した。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



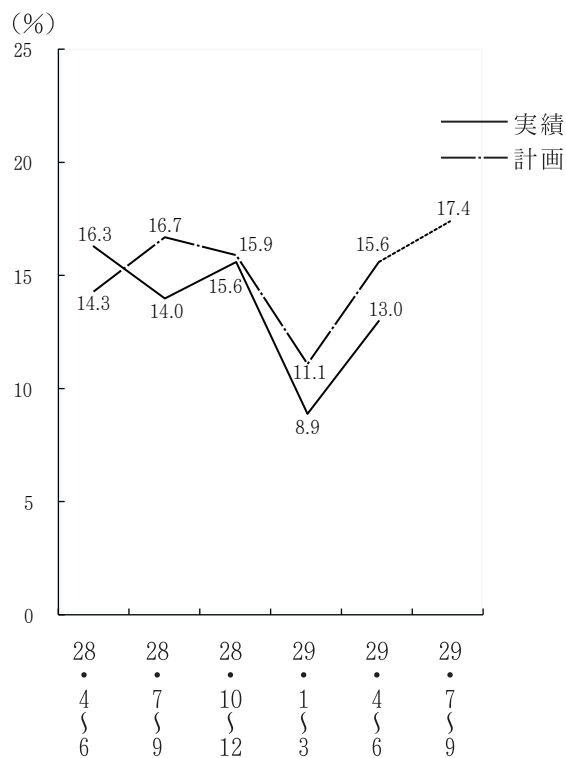
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は、全体の13.0%（前期8.9%）で前期より4.1ポイント増加した。

その設備内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の17.4%であり、その設備内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、その他となっている。

図4-4 設備投資の状況

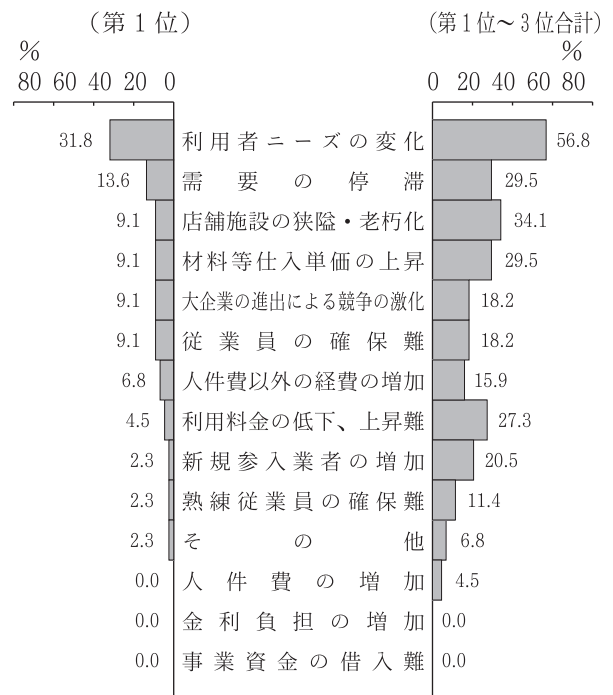


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「利用者ニーズの変化」が31.8%で、次いで「需要の停滞」が13.6%、「店舗施設の狭隘・老朽化」、「材料等仕入単価の上昇」、「大企業の進出による競争の激化」、「従業員の確保難」が同率9.1%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも「利用者ニーズの変化」(56.8% (複数回答合計、以下同じ))が最上位で、「店舗施設の狭隘・老朽化」が34.1%、「需要の停滞」、「材料等仕入単価の上昇」が同率29.5%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

前期と今期の比較において、売上DIは全区分で改善となった。

改善度は宮城、東北、全国の順であった。

採算DIでも全区分で改善した。

改善度は全国、東北、宮城の順であった。

本県回答事業所からは「売上は好調だが、店舗設備の老朽化に伴う事業資金の借り入れの検討が必要」(飲食業)とのコメントや、「利用者の増加にあたってニーズの変化への対応が重要」(理髪業)などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

